

SNS 利用の状況と問題点についての大学生への アンケートとその結果

Flores Shiba Jimena Harumi^{†1} 和田 勉^{†2}

複数の大学の学生に対し、SNS 利用の状況と問題点についてアンケートを実地した。その内容と結果を報告する。学生の現在の利用状況や問題点だけでなく、学生達が中学生や高校生だった時の状況もあわせて質問した。また、当該主題をふまえた、高校共通教科情報科の試作授業案を示す。

Questionnaire to university students about the usage of SNS and its problems and the result

Flores Shiba Jimena Harumi^{†1} Ben Tsutom WADA^{†2}

I made and executed some questionnaire for students in several different universities. In the questionnaire I asked their situation for using SNS and problems on it. In this presentation I report these questions and results. Along with their current usage and their problems, I also asked about their past situation when they were junior and senior high school students. And here I show a trial teaching plan for the high school class "Informatics," which is taught for all students nationwide.

1. はじめに

この報告は中学生高校生に対しての SNS の危険性を示唆し学校教育において今後どのように教えていく必要があるのか考察するために、大学生に対してアンケートを取ったそのアンケート結果である。

現在私たちの生活の中でインターネットはなくてはならないものとなってきている。特に日本において、携帯電話を介したインターネット利用率は年々上がってきている。また、各家庭でインターネットを利用する事が出来る端末が一個以上ある家庭が大半である。インターネットにおけるコミュニケーションを我々現代社会人は重視し始めている。社会はインターネット無くして世界が成り立たなくなってきたといっても過言ではない。そのような時代の変化により、インターネット利用をする年齢がだんだんと早まってきている。早い子供は 0 歳からインターネットを扱う事の出来る端末に接している。今の子供たちはインターネットがある世界で育ってきていると言える。母国語のように機械を扱える子供たちをデジタルネイティブと比喻するいい方がある。全く使えない人との格差をデジタルデバイドという。今の大人はインターネットが無い世界で育ってきた人々である。私はここに問題を見出した。

私[a]はインターネットにおけるモラル・マナーを教える必要があると考えた。今の子供たちは機械と場所だけを与えられ好き勝手に動き回っている。いわゆる野放し状

態であると言える。各運営会社はそれぞれにルールを設け何とか子供たちに危害が及ばないような様々な対策を行っているが十分とは言えない。例えば、モバゲー では 18 歳未満の子供はミニメールが送れないようになっている。

インターネットは個人で操作するものである。即ちインターネット上では教師や親の目が届かない。また公開できる情報が限られているためどの程度の危険性があるか子供たちは危険性を把握できない。特に日本において犯罪が身近でないため回避するのに遅れが生じる。また危険性に遭遇したさいどのように対応すべきかきちんと把握し切れていない状態での web アクセスが多発している。

今後タブレットに移行していく現状においてコンピュータの操作以上に情報の扱い方を教えていく必要がある。その導入的部分においてまず重要なもののひとつとして SNS の正しい利用方法が挙げられる。今急成長している子供たちの web における立ち位置と今後の小中学生に適応していくために、PC の操いについて論じるものである。それだけではなく、PC に対する応用能力の育成が必要であることを述べる。

今の子供たちは教師より情報機器などの扱いにたけている場合が多い。教師が彼らに合わせるのもそうだが彼らが今後、より自分の力を伸ばしていくための情報を引き出していく能力、web 上でのコミュニケーション能力、知らずに人に迷惑を掛けないようにする能力、危機回避能力、情報リテラシーの育成が重要な課題となっていると考えた。

2. 生徒のインターネット・SNS の利用に対する影響

携帯電話、スマートフォンを通してコミュニケーションを取っている生徒たちは、深刻な人間の稀薄性を巻き起こ

^{†1} 長野大学(現: フリー)
Nagano University

^{†2} 長野大学
Nagano University

a) 本報告内で「私」とは登壇発表者の Flores Shiba Jimena Harumi の意味で用いる。

していると私は考える。私が高校生だったころから、休み時間相手が目の前にいるのにも関わらず携帯電話を通して会話をしている生徒がいた。そしてこの現象は年々多くなり、休み時間携帯電話をいじっている生徒がクラスの大半にまで及ぶようになっていく。家に帰っても携帯電話を手放さず、家族とも会話をせず延々と携帯をいじっている生徒も多い。生徒は何かと繋がってみたいと考え SNS を利用している。何かを書き込んで反応が返ってくる。この誰かが見ている、見てくれているという事は生徒が世界から肯定されることで自己肯定感を持たせている。SNS は青春期の生徒にとって自己肯定感やパーソナリティの育成に役立っている。どういう点で自己肯定感を感じているのか、まず Twitter, フェイスブックなどに投稿する際、その投稿を気に入った人が、「いいね」や返信、リツイートを行っている。これにより誰かが反応してくれている、自分の考えが認められていると生徒は感じる。このように多くの人とつながることが出来る場が SNS である。

3. 個人情報の管理

もう一つ大きな問題点がある。それは情報等の漏えいである。特に中学生は情報等の漏えいに関して危機意識が低い。インターネット上にあげた情報は根本的には消すことが出来ない。どこかにその情報が残る危険性がある。様々な情報を組み合わせる事でどこに住んでいるのか、何歳なのか、家族は何名か、この様な情報を得る事が出来る。また若い女性の場合、さりげなく上げた写真の中に、泊まっているホテルのカギが写っていたりすればとても危険である。

中学生・高校生の間で流行っている SNS を介した「バトン」と呼ばれる行為がある。多くの物は、「好きな人・名前・年齢・好きな食べ物・好きなテレビ」等の内容であるがたまに「隣の人の名前は・前の席の人の名前は・よく遊ぶ友達は・好きな先生は・嫌いな先生は」と言った内容のバトンがある。このバトンと呼ばれるものは、「見た人は強制で書いてね」という内容の文がついていたり、または「10人に回さないと言った内容が最後に付け足されている。一昔前までは「10人に回さないと言った内容のものが多かったが最近では「幸せになれない」や「強制ね」などの内容が目立つ。SNS で友人がリア友だけならば問題は無い。しかし、多くの生徒はリア友以外にも SNS で出会った友人がおりその友人に個人を特定できる情報を与えているという問題がある。相手の顔を見る事が出来ないため、「14歳」と名乗っている人が「14歳」であるとは限らない。またプロフィールで女性と言っているからと言って女性とは限らない。そういった中で不特定多数が見ることのできる場所に個人情報を多く載せるのは多くの問題を呼ぶ要因になる。特に若い女性は危険である。

先ほども書いたが、バトンの中で「よく遊ぶ友達」という質問一つでも問題が起きる可能性がある。友人の本名を書いたとしよう。その友人の許可なく書く場合が多いわけであるが、その友人は名前を SNS 上に乗せるのを回避している人であった場合はどうなるか。不快な思いをすることになる。また良く遊ぶという事からもしかしたら同じ学校に通っているのではということによって友人の住んでいる場所も特定されてしまう。他にも次のような問題が挙げられる。「よく遊ぶ友達」に選ばれなかった子はどう思うだろうか。私・僕の事嫌いなのか、あの子の方がいいのか、等と思ってしまい仲たがいの要因にもなる。普段子供たちが何気なく教室で行うような会話を SNS 上で行うと様々な誤解や問題を生じてしまう。これらに関して不特定多数に見られる状況下で多くの情報を載せる事に対する危機管理を見直すよう指導が必要である。

今挙げた二つの例はアンケートの自由記述にトラブルに巻き込まれたことがあるという旨が実際にあがっている。

4. アンケート

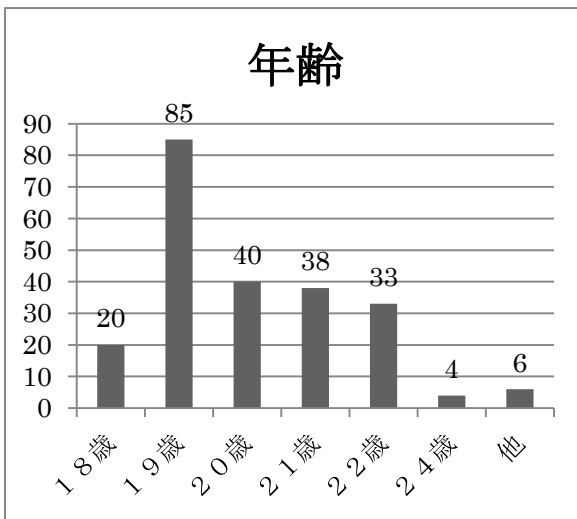
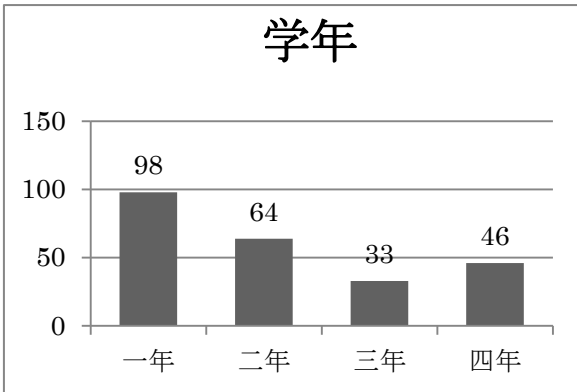
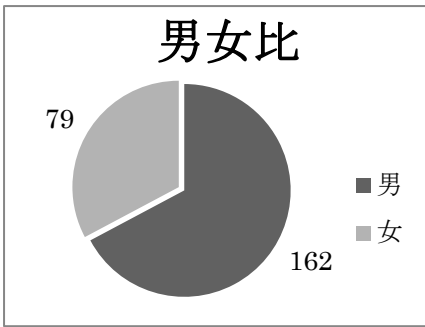
上で述べたように現代の青少年には様々な問題があるわけだが、今の大学生は SNS の利用にあたり問題に巻き込まれたことはあるのか。またどのような問題に直面したのか。SNS の利用はどうしているのか。またどのような問題に直面したのか。SNS の利用はどうしているのか、一日何時間使用しているのか気になりアンケートを実施することにした。アンケートは以下の大学の学生を対象に行った。

長野大学	241人
金沢工業大学	1人
名古屋市立大学	1人
音邦音楽大学	2人
信州医療福祉専門学校	1人
高崎健康福祉大学	5人
桜美林大学	6人
城西国際大学	1人

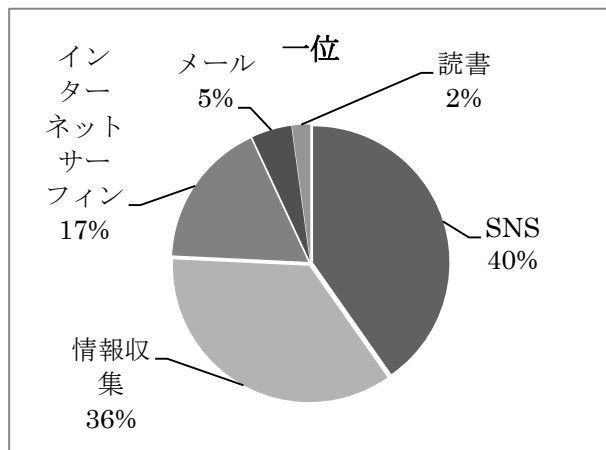
4.1 アンケート結果

アンケート実施人数	241人
内 留学生	25人
内 他校生	17人

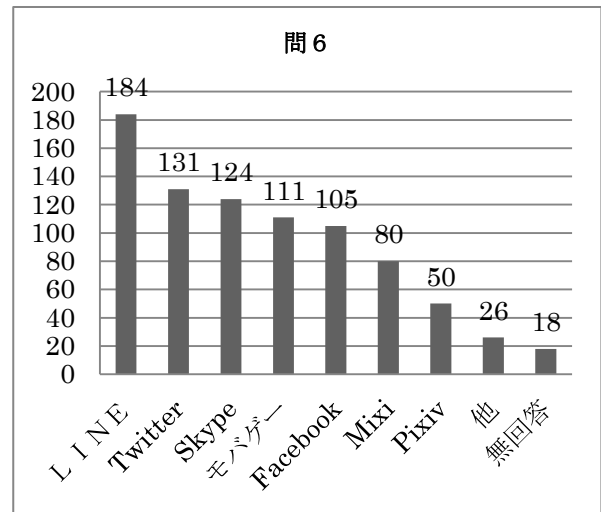
中学校・高校時代の記憶が新鮮な一年・二年を中心にアンケートを実施した。その質問と結果を図1、図2、図3に示す。



問4 インターネットを使う主な目的は？
 順位を付けてください



問6 次の SNS の内使った事のある SNS は？
 LINE Skype Facebook twitter モバゲー
 Mixi ピクシブ



LINE の利用率がトップ 184 名。大半の人がメールや電話の代わりに使っている。次に来るのが Twitter, 131 名である。140 字で「つぶやき」を追加出来る事から利用する人が多い。そして、105 名が Facebook を活用している。SNS を全く使用していない人が数名いた他、SNS で一つだけ当てはまる人はおらず全て二つ以上該当していた。上記の SNS 以外に GREE, ロビ, QQ, マーメイド, FC2, 微博, フォレスト, Yahoo ブログ, 楽天ブログ, デコログ, クローズ, CROO2, ctwrld, gayclub, bubby と数多くの SNS が上がった。

問10 SNS を使うのは週何日間？

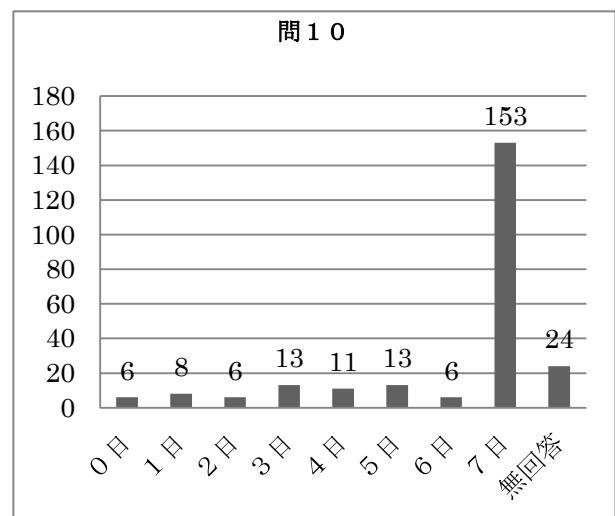


図1 アンケート結果-1

問5 SNSで本名の名字、名前両方を使ったことがありますか？（例：山田太郎） YES 48% NO 48% 無回答 4%	問5 SNSで本名の名前だけ、名字だけを使ったことがありますか？（例：やまだ・Tarou・山田） YES 43% NO 50% 無回答 7%	問7 SNSを利用する目的 会話(チャット) 54% 通話 21% なんとなく 19% 無回答 6%	問8 ゲーム形式のSNSを使用したことは？ YES 51% NO 42% 無回答 7%
---	---	--	--

問9 SNSを使うのは一日何時間ぐらい？

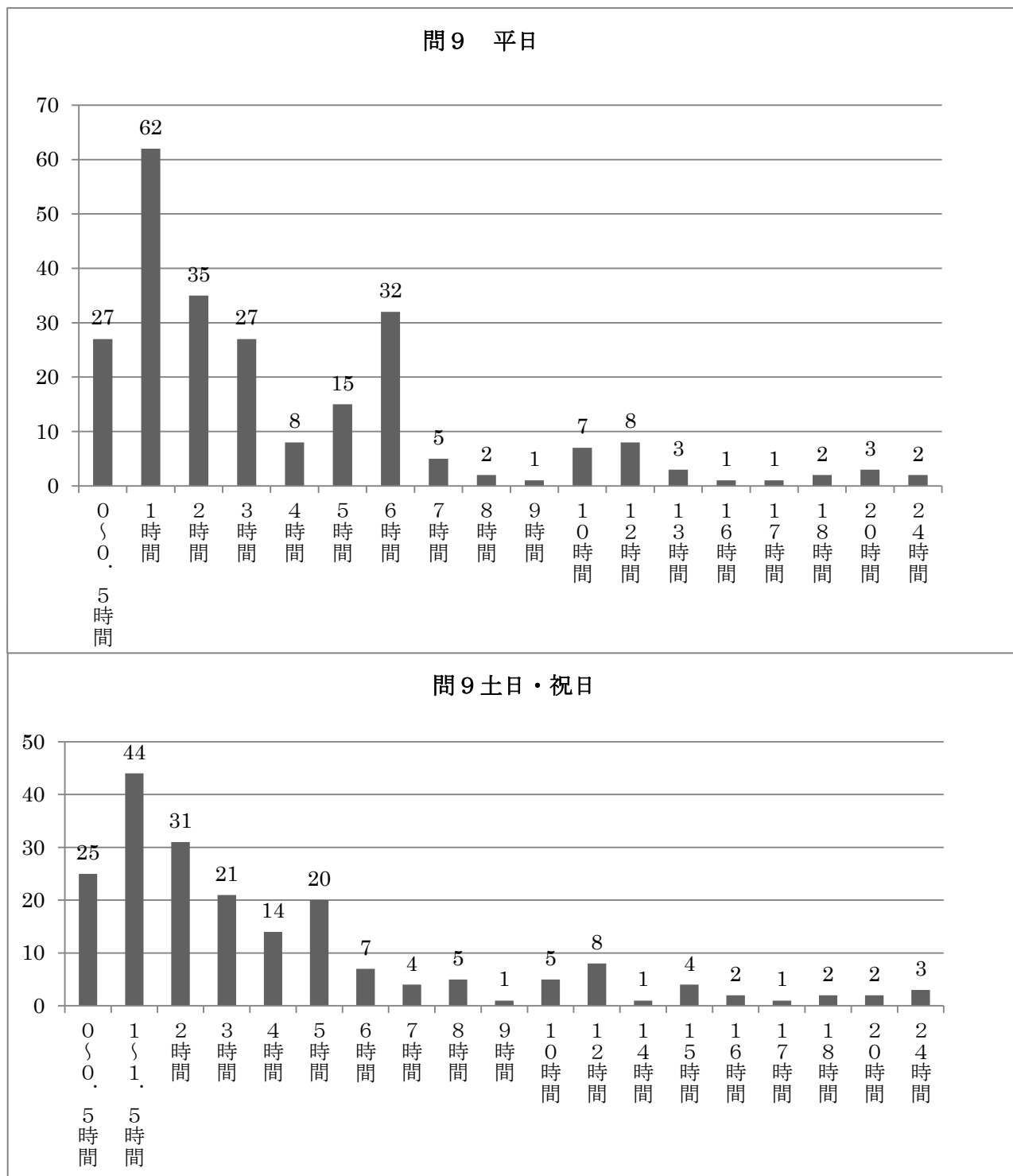


図2 アンケート結果-2

問 1 1・1 2・1 3 SNS で巻き込まれたことのあるトラブルは？回数はいくつ？

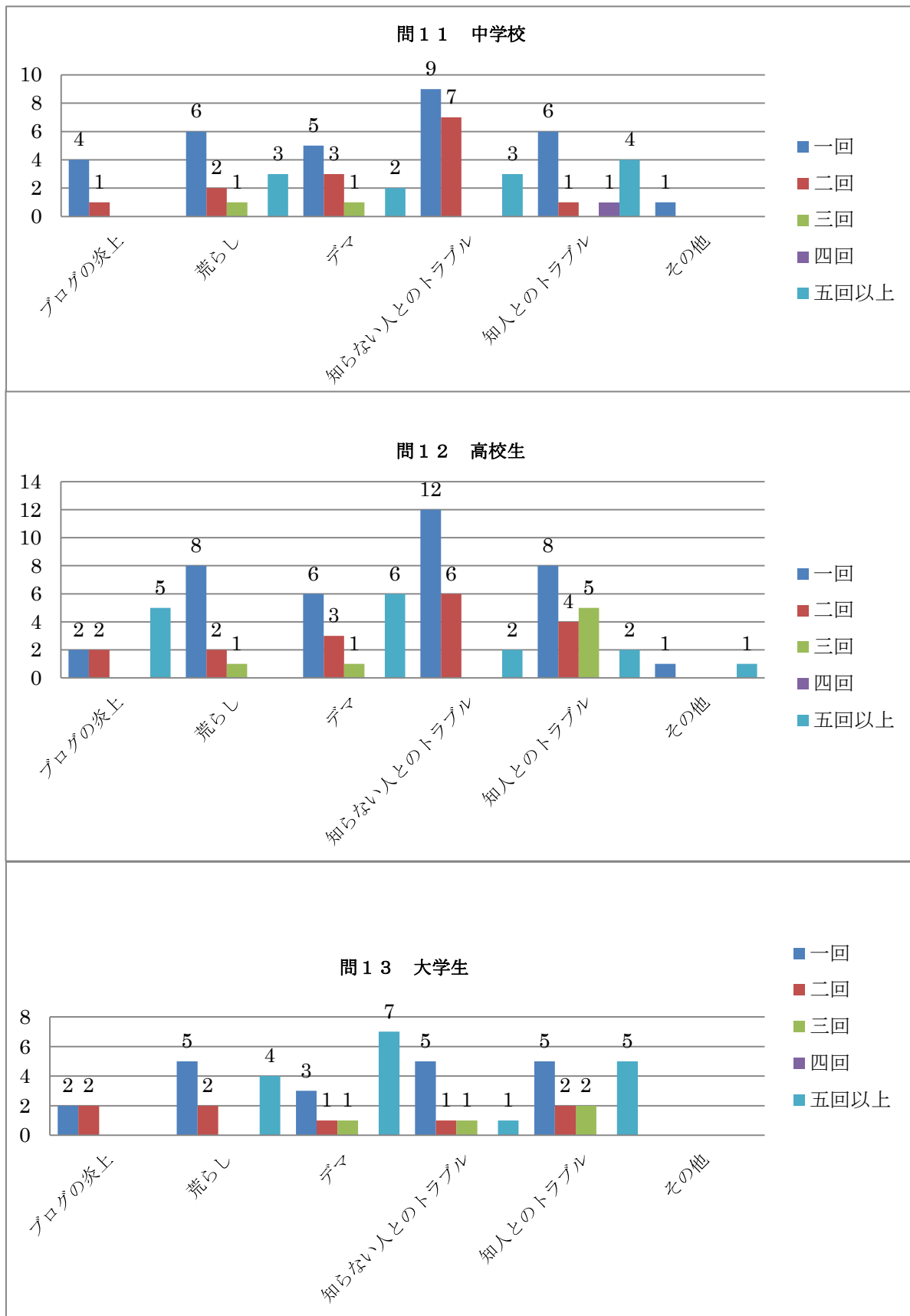


図 3 アンケート結果-3

4.2 自由記述

「問14 今までで一番印象に残ったトラブルを原因と理由をなるべく具体的に書いてください。また、解決できたのか出来なかったのか。」として自由記述での回答を求めたところ、以下のような回答があった。

チャット会話でのトラブル

- ・SNSでの誤解 場合によっては解決出来たこともあるし出来なかったこともある。
- ・知らない人から通話や会話があった。
- ・友達からLINEで嘘を言われた(高校時代) その人がそういう人柄だった。
- ・友人とのメールのやり取りでもめた。他の友人が私のことをこんな風に言ってるよ〜と。未だに真意は不明
- ・グループで話してる中で個人にチャットが飛んできてみんなグチを言って批判する。本人に言わないで話しやすい人にぶちまける感じのことを複数回。
- ・メール文字で相手の捉え方がわからず誤解を与えてしまった。直接あって話して解決した。
- ・原因第三者(先輩)を挟んで幼馴染とメールで喧嘩。未解決。原因不明。小学校の友人も巻き込むはめになった。勝手にSNSにメールアドレスが載りメールが大量に来た。
- ・知らない人とのメールのやり取りでトラブルになった。サイト側に止められた。

ニュース

- ・中学校時代に学校の裏サイトがあつて問題になった。警察沙汰になったがその後のことは知らされていない。
- ・主にネット書きたいことをそのまま書き込んで相手を傷付ける問題
- ・3.11の震災の数日間地震の影響で有害物質が年内に発生したというデマ
- ・SNSで出会って殺したとかの事件。中高生が知らない間にトラブルにまきこまれている。性犯罪とか売春とか

荒らし

- ・自分のブログを特定されてしまいそれをネタにされて多くの人からいじめみたいのを受けた。結局うやむやなまま終わった。
- ・自分が無自覚な荒らしになったことがある。原因はインターネットでの不特定多数の人が見ているという知識が欠けていた。荒らしだと言われ解決を図ろうとして謝罪したが火に油を注ぐことになった。
- ・自分の神経質・相手の無礼さで相手の周りの人が荒らしに来た。そこそこ解決(放置、削除、相手の周りをブラックリスト登録)
- ・中学校の頃ホームページ作りが流行っていて作ったサイトを荒らされた。
- ・トラブル:メンツの荒らし(原文のまま)

原因・理由:クラスメイトによって自分のブログを2ちゃんねるにさらされた

解決: ブログの閉鎖・移転(新規ブログは知人にも知らせていない)

情報漏洩

- ・ラインで情報を漏らした。
- アダルトサイト・ワンクリック詐欺
- ・出会い系, エロサイトのワンクリック詐欺
- ・ワンクリック詐欺でいきいり登録ありがとうございましたと言われた。そのまま放置したため何も起こらなかった。

ウイルス

- ・ウイルスが多かった。カーソルが勝手に動きながらサイトに行った事があった。
- なりすまし・アカウント乗っ取り
- ・ネットゲームでアカウントを取られたこと。
- ・中学生のころ, IDとPWの重要性がわかっておらず, ゲームのキャラクターを使わせてあげるために顔を知らないゲーム内の知人に両方を教えた。IDとPWが分かればPWを書き換えられるので, PWを変えられアカウントを乗っ取られてしまった。
- アカウントは返ってこなかった。
- ・知人のTwitterアカウントが全く面識のない他人に不正利用されたこと
- ・高校時代, ツイッターに自分の成りすましがいた解決, 友人たちのフォローとアカウント名変更の通知による対処
- 他
- ・パスワードを忘れてログインできなかった。
- ・つぶやきでショックを受けた。原因は好きな子が発覚したため。理由は気になっていたから。
- ・スレ違いで注意を何度かしたが改善されずスレから抜け, スレしたら就いてきてまで話を続けたので説教。三時間かけて説き伏せて理解したと思ったら捨て台詞を吐いて逃走。

5. 授業案

付録1に、関係する授業案を付ける。この授業案は以前私が作成したものであり、今回の話の趣旨と一致している部分があるためここに記載した。

単元は「情報社会の課題と情報モラル」でありその中の「第3節 情報社会における法と個人の責任, 5 ネットトラブルのケーススタディ」をとり挙げている。この授業案では教科書に載っている例を起用して生徒に説明すると書いてあるが、今回のアンケートからでた問題を起用すれば実際に起きた問題を生徒に考えさせる事が可能になり、実際に問題に巻き込まれたことがある人がいることを説明しつつ授業を行えばより生徒に危機管理を持たせることが可能だと考えている。今回あがった事例は授業の中で様々な取り入れ方をすることが可能である。

6. まとめ

SNS を利用するにあたり様々な問題が生じる事がアンケート結果から分かった。今の大学生が SNS を利用する時間が一日に最低でも一時間だとして、今後の子供たちはもっと密接に SNS を利用していく事になる。上辺だけで、個人情報情報を SNS 上に上げてはダメと生徒に言っても生徒自身が納得いかない。何故ダメなのか具体的に示唆することでより生徒の危機感を上げ、問題に巻き込まれる事を回避する事が可能である。頭ごなしにダメと使用を禁止するだけでは生徒は反発心を持ってしまう。この反発心を持たせずに問題に巻き込まれないように具体的な事案を持って指導する事が望まれる。

今回アンケート結果で出てきた問 14 の自由回答だが、これらの内容は今後授業でこういった問題があると示唆しどう回避する事ができるのか生徒に考えさせる事が可能である。機械の扱い方を知っていても円滑なコミュニケーションを知らない。普段子供たちが間違えた言葉遣いや人を不快にさせる言動を取れば注意する事が当たり前である。しかし、SNS 上ではこれが不可能である。特に特定の人だけが入れるグループ会話などでは大人の目が届かない。注意する人がいない状況である。そのため生徒自身が注意して

SNS を利用するよう指導していく必要があると今回のアンケート結果から分かる。

「荒らし」に関しても無意識に自分が荒らし行為をしてしまう可能性がある。このようなことを回避するためにも、どのような行為が「荒らし」になるのか認識させることで自分が荒らしにならずに済むようになる。私たちは今後の世界を担っていく子供たちにインターネットや SNS を介したコミュニケーションの方法を教えていく必要がある。

なお今報告のより詳しい内容を私の卒業論文[1]で述べている。

謝辞 この論文を書くにあたり様々なサポートをしてくださいました長野大学の教職員の方々を初めとして、アンケートにご協力頂いた長野大学、金沢工業大学、名古屋市立大学、音邦音楽大学、信州医療福祉専門学校、高崎健康福祉大学、桜美林大学、城西国際大学の学生に感謝します。

参考文献

- 1) Flores Shiba Jimena Harumi:リアル型コミュニケーションツールの教え方、長野大学企業情報学部 2013 年度卒業論文(2014.02).

付録

付録 1 授業案

情報科単元指導案

授業者: Flores shiba Jimena Harumi

指導教諭: 和田 勉 先生

教科書: 第一学習者

高校 社会と情報

授業学級 二年生 生徒数 30 人

1. 単元: 情報社会の課題と情報モラル

本単元の位置づけ:

前全単元では、ネットワークの仕組みやコミュニケーション手段とはどのようなものであるか学んだ。本単元ではこれらの手段のメリットやデメリットを認識させ理解させることが必要である。その上で、次の単元である望ましい社会の構築につなげていく。

2. 単元目標:

- ・情報化が社会に及ぼす影響を理解させるとともに、情報化が使用者にもたらすメリット・デメリットを理解させる。
- ・個人認証と暗号化などの技術や情報セキュリティポリシーの策定など、情報セキュリティを高めるための様々な方法を理解させる。
- ・多くの情報が公開され流出している現状を認識させるとともに、個人的に責任を持ち、正しい情報の使い方を理解させる。

3. 単元の展開 (時間数 1 1 時間)

	内 容	教 材
第一時	第一節 1 身の回りの情報化 第一節 2 商取引の情報化	教科書

第二時	第一節 2 商取引の情報化 続き 第一節 2 電子取引の問題点	教科書
第三時	第一節 3 情報社会のコミュニケーション 第一節 3 インターネット依存・情報公開の危険性	絵文字や顔文字の絵を用意. フレームワークの記入用紙
第四時	第一節 4 情報化の現状と未来 第一節 4 デジタルデバインド 第一節 4 ユビキタスコンピューティング	教科書
第五時	第二節 1 情報化セキュリティの確保 第二節 1 情報セキュリティとは	教科書
第六時	第二節 2 情報セキュリティに対する脅威と対策	教科書
第七時	第二節 3 情報セキュリティを維持するための体制 第二節 3 デジタル署名とPKI	教科書
第八時	第三節 1 情報社会における法と個人の責任 第三節 1 個人の権利 第三節 2 著作権 (情報発信・著作権)	教科書 P136 の図を印刷して配る. 著作権に該当するものの資料を用意.
第九時	第三節 2 著作権 (著作物と様々な著作権・情報発信と著作権) 第三節 3 誹謗中傷	教科書 著作権に関する資料.
第十時	第三節 4 サイバー犯罪 第三節 サイバー犯罪の 3 つの分類と 4 つの特徴	教科書 ウィルス対策ソフトの見本 新聞記事の切り抜きもしくは情報元
第十一時	第三章 5 ネットトラブルのケーススタディー	教科書

4. 単元の評価観点：

- ・情報化が社会に及ぼす影響，情報化が使用者にもたらすメリット・デメリットが理解できたか。
- ・個人認証と暗号化などの技術，情報セキュリティポリシーの策定，情報セキュリティを高めるための様々な方法があることが理解できたか。
- ・多くの情報が公開され流出している現状を認識することができたか，それに対して，個人的に責任を持ち，正しい情報を扱えるようになったか

情報科授業指導案<本時 2 >

日時：〇〇年〇〇月〇〇日

教科書：第一学習者

高校 社会と情報

1. 単元 情報社会の課題と情報モラル
 第 3 節 情報社会における法と個人の責任
 5 ネットトラブルのケーススタディー

2. 生徒の状況：二年二組 生徒数 30 名 (男子：〇名，女子〇名)
 比較的小となしいクラス。自主的発言が少ない。そのため，席順で順番にあてる。
 分からない場合は次の人に。

3. 本時の目標

ネットワーク社会には様々な危険がある。トラブルに巻き込まれないための心構えをみにつけさせる。また，トラブルに巻き込まれたときの対処を身に着けさせる。

4. 本時の展開

過程	学習活動	指導内容	指導上の注意
復習 8分	前回のまとめ サイバー犯罪とは何か.	サイバー犯罪の4つの特徴は何か 思い出させる. 確定させる. 有害サイトについて.	サイバー犯罪の3つ の分類と混合してい ないか確認する.
展開1 12分	掲示板への書き込みによる 被害	出会い系サイトとSNSについて. 事件の経緯を理解させる. 被害届もだすことができることを 理解させる.	自分たちだけで解決 しなければならない と受け取らせない.
展開2 12分	ブログでの被害	ブログについて. 事件の経緯, 問題点を理解させる. ブログはコメントを残している友人 以外も見ていることがあると理 解させる.	ブログの情報は消え ないことも伝える.
展開2 10分	ワンクリック詐欺	迷惑メールについて. 事件の経緯を理解させる. ワンクリックだけで契約は完了し ないことを理解させる. またむやみに個人情報を入力しな いように理解させる.	個人情報を入力し, 暗証番号も入力して しまうと契約が成立 してしまうので誤解 を生まないように説 明.
まとめ 8分	詐欺の手法	被害届を出すことができること, 自 分一人で解決しないように呼びか ける. 情報社会はメリットもあればデメ リットもあることを再度認識させ る.	疑問等が無いかな 確認.

5. 本時の評価の観点: ネットワーク社会には様々な危険があることが理解できたか.
 トラブルに巻き込まれないための心構え, トラブルに巻き込まれたときの対処が理解できたか.

付録1 授業案(続)